令和5年3月15日発行　2023年3月号　小淀ホーム広報誌　通巻95号

寿楽 小淀ホーム

KOYODO HOME

JYURAKU Since 1996

令和5年3月号

ホームの食事

ホームには管理栄養士1名が在籍し、食事・栄養管理などを担当しています。日々の食事は調理員がホームの厨房で調理を行っています。

軟らかい食事

カットなどしていない普通のミートローフ

ミキサーにかけて固めると…

舌で潰せる硬さに調整したムース状のミートローフ

噛む力や飲み込む力が弱くなった方が食べ易いように食事をミキサーにかけた後、肉や魚の型に流し込みムース状に固めます。
ムース状の食事は舌で容易に潰せる硬さになっており、見た目でも楽しんでいただけるよう、工夫をしています。

楽しい食事

食事は楽しみのひとつ♪
食事を通して季節を感じていただけるよう、正月祝い膳・ひな祭りなどの季節の行事食や、お寿司・天ぷらなどのイベント食を提供し、季節感や特別感を演出しています。

～ひな祭りの行事食～
「ひな祭りちらし」と「雌雛まんじゅう」で華やかさを演出しています

花形に型抜きした「卵焼き」

季節の果物「苺」

季節を感じていただく食材のひとつとして果物があります。
毎月季節の果物(苺・シャインマスカット・夕張メロンなど)やケーキなどを提供しています。
特に果物の人気が高く、食事よりも先に召し上がられ「美味し～い♪」と喜ばれています。

ムースのお寿司も手作りします。
ペースト状のシャリの上にムース状に固めたネタを載せています。

ペースト状にし、舌で潰せる硬さに調整したお寿司

私たちが美味しく、安心で安全な食事を提供いたします

私たちはご利用者の日々の生活を食事の面から支援しています。
「食事の時間が楽しみ」と思っていただけるように味はもちろん、見た目のきれいさも重視して調理を行っています。
ホームの職員の方を通じて「これが美味しかったと言っていたよ」など、ご利用者からのお褒めの言葉をいただいた際や完食された食器を見た際は、とても嬉しく感じます。
これからもご利用者に喜んでいただけるような食事提供ができるよう職員一同頑張っていきます。
どうぞよろしくお願いいたします！！

ノーリフトケアについて

ノーリフトケアとは

「持ち上げない、抱え上げない、引きずらない」
の考えをもとに、人の力のみでは行わない支援のことで、介護する側、される側双方において**安心で安全なケアです。**
ノーリフトケアを行う前は、車椅子からベッド等への乗り移り（移乗介助）の際に**「よっこいしょ！」**とご利用者の身体を抱えたり、持ち上げたりして介助を行っていました。そのような介助方法では、職員の**腰痛**の原因になってしまうことや、ご利用者の**ケガ**に繋がることもあり、**課題**となっていました。

介護リフトの導入

小淀ホームのノーリフトケアでは３つの道具を用いています。

介護リフト

スライディングシート
スライディングボード

ご利用者一人ひとりに合わせた支援が提供できるよう、数種類の福祉用具を取り入れています。様々なニーズに応じられるようにすることで、安心で安全なケアを進めています。

床走行式介護リフトは、専用のシートにご利用者を乗せて、吊り上げ、腰に負担をかけずに車椅子などに移乗する機械です。
令和3年度、令和4年度にそれぞれ1台導入し、現在2台が稼働しています。

小淀ホームでの取り組み

小淀ホームでは、平成27年度より『 ノーリフトケア 』を推進して、福祉用具活用について定期的に研修を開催してきました。始めは、今までの介助方法と異なるため、戸惑いもあり慣れるまでに時間が掛かりましたが、今では介助をする上で福祉用具は欠かせないものとなりました。

▲スライディングボード研修風景。講習ビデオを見た後、職員同士で実践します。

▲シートは滑らすように使用します。

移乗介助に福祉用具を使用することは、職員の腰への負担軽減にもなり、腰痛を理由とした休職や離職の防止にもなります。また、統一した介助技術の指導にもなり、新人職員も理解しやすく、『ノーリフトケア』をご利用者に安心かつ安全に提供することができます。今後もご利用者一人ひとりの状態に合わせた支援が提供できるように取り組んでまいります。

小淀介護保険センターとは？

みなさん、こんにちは。
私たちは、小淀ホーム内にあります「小淀介護保険センター」というケアマネジャーの事業所です。男性2名、女性3名が在籍しています。
ケアマネジャー略して「ケアマネ」、名前だけは聞いたことがあると思いますが、実際に何をしている仕事か分からないという話を聞くこともありますので、今日は我々ケアマネジャーについて質問形式で知っていただければと思います。

Q：「ケアマネジャーの仕事って何ですか？」

A：「買い物に行きたいけど足が痛くて行けない。手伝って欲しい」
「家に一人きりで誰とも話さない、認知症にならないか心配」
「リハビリを勧められているけど、どうしたらよいか分からない」など、
日常生活での困り事を解決できるように、皆さんと相談しながら計画（ケアプラン）を立てていく仕事です。

週1回ミーティングを行い、情報を共有しています。
担当ケアマネが休みでも、応対できるように、ケアマネが1人で悩みを抱えこまないように相談しています。

Q：「一度立てた計画はずっと変わらないのですか？」

A：いいえ。何か変化があれば計画（ケアプラン）も要介護度も見直すことができます。

Q：「どんなふうに解決していくのですか？」

A：介護保険のサービスだけでなく、それ以外のサービス、例えば宅配弁当や区のおむつサービス、ごみの戸別収集などもご提案できます。

Q：「介護保険のサービスは、どんなものがありますか？」

A：買い物や掃除、入浴など、自宅でサービスを受ける訪問介護（ヘルパー）、余暇活動や昼食、入浴など施設に出かけサービスを受ける通所介護（デイサービス）、自宅で健康管理やリハビリを受ける訪問看護、手すりやベッドなどを借りたり購入したりする福祉用具サービスなど、また施設で短期間宿泊するサービス（ショートステイ）などがあります。

「急に動けなくなった」
「施設に入るにはどうしたら良いの？」
「介護保険の申請ってどうするの？」
だけではなく、「私も歳を取ってきたから今後が何だか心配」など、ちょっとしたことでも気軽にご相談下さい。
心優しいケアマネジャー5名でお待ちしています。

小淀介護保険センター　03−5348−8739
営業時間：月曜～土曜　8：30～17：30（日曜日はお休みです）

特養にて第三者評価を受けました

令和4年度も特養でのサービスのあり方を評価していただくため、第三者評価を受審しました。今後もより良いサービスを目指してまいります。全体の講評は以下の通りです。

特に良いと思う点

①質の高いチームケアの実践と利用者に寄り添った支援に取り組んでいる

週1回のミーティングに多職種が参加しており、連携して利用者の状態変化やそれに伴う対応の変化等について確認している。褥瘡・機能訓練・栄養等の各種委員会では各専門職と介護職それぞれの目線で意見を出し合うことができ、職種間で尊重し合いながら利用者に寄り添った効果的な支援が検討できる質の高いチームケアを実践している。

②業務効率化・生産性向上など、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる

「ICT(情報通信技術)機器の導入」「ノーリフトケアの推進」「特殊浴槽の更新」「見える化のための業務量調査」などを着実に進捗させている。更なる成果を獲得していくために移乗用リフトの活用に向けた教育の充実とリフトの増台を計画している。業務量調査で把握した課題を基に業務改善方策や職員の適正配置を検討し、業務の効率化と生産性の向上につなげ、働きやすい職場の実践を目指している。

③地域貢献活動を推進し、地域に開かれた施設を目指す運営に取り組んでいる

感染症予防のため休止していたが、地域からの要望もあり感染症の流行が下火になったタイミングで感染症対策を講じた上で「スマイルcafé（認知症カフェ）」を再開させた。また区内事業所との共働開催である認知症理解の啓発活動であるランニングイベントにも参画している。地域に開かれた施設を目指す事業運営に積極的に取り組んでいる。

更なる改善が望まれる点

①統一された職員育成が実施できることを喫緊の課題としている

育成方針の内容等を改めて検討すると共に、新任職員育成マニュアルと業務手順書について更新し、統一された育成が実施できることを課題としている。外国人介護人材採用計画を策定して技能実習、特定技能など積極的かつ計画的な採用を行うと共に育成に取り組んでいる。これらの取り組みの統合により着実に職員を確保していくことを期待する。

②楽しみの提供に向け、引き続き意欲的な取り組みと実践に期待する

利用者の意向を基に「夢の実現」として希望を叶える企画にも取り組み、意欲的に楽しみの提供に取り組んでいる。コロナ禍において外出行事などが難しく、施設内で開催できる行事は今後も重要であると考えられる。利用者の笑顔を引き出す楽しみの提供に向けて、引き続いての取り組みとその実践に期待する。

③地域において、より専門性の高い認知症ケアを実践していきたい

地域における高齢者ケア・認知症ケアの拠点となることを目指している。認知症に関する基本的な知識やケアの技術を習得すると共に、認知症の方の認知力の向上を目指すケア・コミュニケーション技法を体得し、実践できるように取り組んでいくことも計画している。それらを施設全体で取り組んでいこうという意向に期待する。

詳細は、とうきょう福祉ナビゲーション（http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/）
「福祉サービス第三者評価」でご覧いただけます。